

「地域連携」のしくじりから学ぶ

地域を消費しない総合的な探究を目指した5年

探究学習を実施する上で、「どのように地域連携していけばいいか？」という課題をもつ学校は多いと思います。第三回は『「地域連携」のしくじりから学ぶ』と題して、鳥取城北高等学校（以下、鳥取城北）にて、総合探究主任を務められた大山力也先生にご登壇いただきました。教員や地域コーディネーターとしても活躍された経験から、地域と連携した数多くの実戦とそこで生じたしくじりを紹介いただきました。

鳥取城北には、県内の中学生の15人に1人が進学し、多種多様な生徒が在籍しています。しかし、多くの生徒たちが、地域の魅力を知らず、家庭と学校の中だけで生活しており、都市部に比べて情報や体験機会も乏しく、人生の選択肢が貧困なまま、卒業してしまう。これを「地域の機会損失」と感じた大山先生は、3つの課題に分解しました。

- ・子どもたちがどこで社会と関わるのか？（学校で始まり学校で終わる世界観を崩すには？）
 - ・どうやって子どもたちと社会を繋げるのか？（都市と地方での情報・体験機会の大きな格差を取り除くには？）
 - ・どう子どもたちの世界観を広げるのか？（既存の仕事イメージだけの人生選択肢の貧困さを解消するには？）
- そして、総合的な探究の授業を中心に、授業だけに囚われずにさまざまな実践に挑戦してきました。

例えば、インターンシッププロジェクト（資料①）や、総合的な探究の時間に、地域の面白い人をどんどん招いた連続講座の実施（資料②）、地元事業者とオリジナル商品の制作やデザインをするアントレプレナー部の活動（資料③）など、多岐に渡ります。すべてに共通するキーワードは「意思ある大人に出会わせる」ことです。大人が思いを持って実践する姿を見ることで「楽しそう！自分もやりたい！」という気持ちにも繋がります。それだけでなく「大人でもいろいろ悩んでる。大人だけに任せるのではなく、自分たちの出番だ！」と生徒が動かずにいられない状態になり、どんどん自分たちでアクションを起こしていく生徒も出てきたそうです。

しかし、挑戦に失敗はつきもので、しくじりはたくさんありました。例えば、新しい取り組みをする度に、同僚に「人の仕事を増やすなよ」とツッコまれたり、生徒たちが学校の外に出た際は、マナーや一般常識がなくトラブルになったり、どの学校でもよく起こる問題が、当然のように大山先生にも降りかかりました。しかし、大山先生は、子どもたちも大人と同じで「しくじりからたくさん学べる」と考え、色んなトラブルを子どもたちと一緒に学びに変えていきました。

そして、実践を続けるうちに、子どもたちの顔つきや言動が変化していくと、周りの先生たちも徐々に反対しなくなっていきました。複数の社会での経験から、生徒が今まで自分事ではなく遠かった社会課題に、実感や関心を持ったり、自分自身の経験や学びを語れるようになるなどの変化が見られ、先生方が進路指導がやりやすくなったと感じるなど、様々な効果を実感していったようです。



資料① インターン事例



資料② 連続講座の実施



資料③ アントレプレナー部の活動

大山先生が実践を企む上で、狙っていることの1つに「実は、世の中にはこんなにも、おもしろいことや価値のあることがあるんだ」ということに気づいてもらうことが挙げられます。その対象は生徒だけでなく、先生たちも含みます。大山先生は、周りの先生方が我慢できなくなって声をかけたくなるくらい、面白いことをやり続けるそうです。先生方の興味関心に引っ掛けて、「一歩を踏み出していただく」と。わざと職員室の真ん中で楽しく実践の準備したり、面白い講演を複数観れる機会を作ることは、生徒と一緒に先生方にも「もっと新しいこと・楽しいことに挑戦しよう」と思える仕掛けになっています。(資料④⑤)

子どもや先生、地域の方たちと共に、自らも思いを持って実践してきた大山先生が、次に見据えるビジョンは何なのでしょう？ 地域連携には自然な形があると大山先生は言います。そもそも生徒が社会と関わることは当たり前で、その中で、自分はこういう役割を果たしたいと思うようになります。しかし実践を振り返ると、生徒が地域連携を「自分の進路のためにやっておいた方がいいこと」として捉えていたり、大山先生自身も「きっとこの経験が（進路選択に）役に立つから」と薦めてしまっていたこともあったと。(資料⑥) 地域を手段として捉え、ただ消費している状態を脱却し、地域と学校が共に長く付き合える関わり方を作りたいと考えており、今後は新たな学校にステージを移し教育の世界でチャレンジを続けていくそうです。

資料④ 地域連携で大切にしたいこと

資料⑤ 地域連携の流れとつながりの課題

資料⑥ はじめに作成した地域連携（インターンシップ）のモデル図

しくじりメモ

- 例) ・興味関心につなぐ多様なアプローチ
- ・地域と自然に繋がる学びの実践

Speaker

Mr. **しくじり** 大山 力也 先生



元・鳥取城北高等学校 総合探究主任

山梨県で私立高校の非常勤講師を経験後、2017年より鳥取城北高校教員として鳥取県に移住。アントレプレナー部顧問、総合探究主任として「学校と社会をつなげる」ことをテーマに活動した。2019年には日本財団地域コーディネーターを兼任。2022年3月に高校教員を退職し、徳島県へ移住。2022年10月から、来年度開校予定の神山まると高専で勤務。